

令和2・3年度始良・伊佐地区研究協力校「学力向上」 霧島市立牧之原小学校研究公開

1 研究主題

基礎的・基本的な力の定着を図る算数科学習
～「つながり」を意識した取組を通して～

2 研究発表

霧島市立牧之原小学校では、令和2年度から2年間にわたり、地区研究協力校として、「基礎的・基本的な力の定着を図る算数科学習」を研究主題に、研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、「つながり」をキーワードに、「子どもの思考をつなげる授業の工夫」を視点にした授業改善の取組や「算数の授業につながる環境の工夫」を視点にした共通実践の取組が紹介されました。

研究内容及び具体的な取組は、以下のとおりです。



【全体会 I 研究発表の様子】

(1) 子どもの思考をつなげる授業の工夫

- ア 前時や関連のある単元とつなげる
- イ 日常事象とつなげる
- ウ 操作的・作業的・体験的な活動とつなげる
- エ 子ども同士の考えをつなげる
- オ 家庭学習とつなげる（授業連動型家庭学習）

(2) 算数の授業につながる環境の工夫

- ア 力を付けるチャレンジタイム
- イ 算数的な事象を身近に感じさせる校内環境
- ウ 関連をもたせる家庭学習
- エ 家庭との連携
- オ 朝の会の活用

3 公開授業

研究を具現化した検証授業として、4年生と6年生の2学年の授業が公開されました。

第4学年では、宮下洋平教諭が「面積」の全11時間の7時間目を行いました。複合図形の辺の長さを求めるという発展的な問題を、身に付けた既習事項を活用して、ペアでの学び合いの中で表現し伝え合いながら、解決方法を見出すことができていました。



【第4学年研究授業】

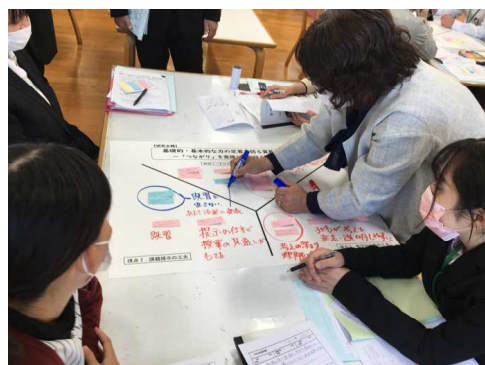
第6学年では、船津啓治教諭が「立体の体積」の全6時間の4時間目を行いました。複合立体の求積方法について、体積を求めることができる角柱に着目して、分けたり、補ったり、より求めやすい底面積がどこかを判断したりするなどして複合立体の体積の求め方を考えることができていました。



【第6学年研究授業】

4 分科会

分科会では、公開授業の4年、6年に分かれて、ワークショップ型の研究協議が行われました。それぞれ、参加者の公開授業を基にした提案検討がなされ、子供同士をつなぐ教師の具体的な言葉かけや可視化についての意見交流がなされました。研究協議の中で出された意見の主な内容は、以下のとおりです。



【分科会の様子】

【4年分科会】

- 児童と教師のつながりが見られた。先生の「何で？」によく答えていた。
- ペア学習が活発なため、自分の考えを発表、説明しやすかった。
- 教師が児童の発言やつぶやきをうまくつないで考えを深めていた。

【6年分科会】

- 立体模型は有効であり、児童の思考をつなぐ使い方ができていた。
- ロイロノートを活用について、練習問題としての使い方は有効であった。
- 振り返りの場では、学習支援ソフト「manavi」を使う方法もある。

次に、参加者の感想の一部です。

- ・ 学びに真剣で、学級がとてもよい雰囲気だった。
- ・ 掲示物等、児童の興味・関心を高める工夫が随所に見られた。
- ・ 児童への問いが一方通行ではなく、キャッチボールになり考えを進めることができていた。
- ・ 児童の生き生きとした様子が見られ、グループ活動、表現活動に取り組んでいることがよく分かった。
- ・ 家庭学習（予習）を提出させることで、教師が事前につまずきの傾向を把握することができ、授業に生かせると思った。
- ・ ただ何となく学び合いをさせるのではなく、ねらいや内容、実態に応じて工夫してさせることが大切だと思った。自分の実践に生かしていきたい。
- ・ 算数の用語の使い方に中学校との違いがあり、今後は中学校とのつながりも考えていくべきではないか。